

優良家畜生産規範学（二次モデルカリキュラム案）

授業科目：優良家畜生産規範学		担当教員：関連教員	農学部	研究室番号：
英語名：Introduction to good animal production practice				
単位数：2	対象学年：農学部 3、4 年	実施時期：	教室等：xxx	
<p><授業のねらい></p> <p>教育目的 適正農業規範（Good agricultural practice; GAP）は安全な農産物や畜産物を生産する為の規範でありヨーロッパを中心に世界的に導入が進んでいる。国内における導入は一部の農産物に限られているが、「食の安全性」に対する社会的関心が高まるなかで、畜産に対してもGAPのような規範の導入が必要である。GAPは農畜産物の生産過程における畜産物の安全、労働安全、環境保全、動物福祉の4つの大きな項目に関して生産者が遵守すべき具体的項目が定められている。本講義では、農畜産業にGAPを導入する目的を理解させ、GAPに定められている項目の科学的根拠を理解するために必要な知識を学ぶ。</p> <p>到達目標 GAPに定められている項目の目的や必要性を科学的根拠に基づいて理解し説明できる知識を習得させる。また、農場ごとに適したGAPを考えることの出来る知識を習得させる。</p>				
<授業計画>				
第 1 回	実践家畜生産学の概要、Good agricultural practice（適正農業規範）とは			
第 2 回	家畜の体の構造としくみ①（消化・吸収）			
第 3 回	家畜の体の構造としくみ②（繁殖・生理）			
第 4 回	家畜の飼養管理①（畜舎環境）			
第 5 回	家畜の飼養管理②（飼料管理）			
第 6 回	家畜の飼養管理③（衛生管理）			
第 7 回	家畜の疾病			
第 8 回	人と動物の共通感染症			
第 9 回	家畜のワクチネーション			
第 10 回	畜産現場で使用される薬物と問題になる化学物質			
第 11 回	畜産物の生産流通管理（トレーサビリティ）			
第 12 回	労働者の衛生と安全、福祉			
第 13 回	環境保全に配慮した畜産①（環境負荷、生物多様性）			
第 14 回	環境保全に配慮した畜産②（循環型畜産）			
第 15 回	動物福祉に基づいた飼養管理			
教科書、参考書				
1) 配布プリント。				
備考				
1) 履修上の注意：講義はスライドおよび必要に応じて配布プリントを使用する。各自筆記具を用意すること。				
2) 受験資格（出席等）：学則の基準に沿う。				
3) 評価方法：受講態度および定期試験を総合して判定する。				
4) 評価基準：最終評価点 90 点以上（秀）、80～89 点（優）、70～79 点（良）、60～69 点（可）、60 点未満（不可）				
5) 関連科目：家畜管理学、飼養学、草類利用学、解剖学、生理学、生化学、病理学、臨床繁殖、毒性学、家畜衛生学、公衆衛生学				
6) その他：オフィスアワー随時。				